

日蓮大聖人御書全集

しじょうきんごどのごへんじ

四糸金吾殿御返事

しゅじょうしよゆうらくごしよ

（衆生所遊樂御書）

しじようきんぐどのへんじ しじようしよゆうらくぐしよ

四条金吾殿御返事（衆生所遊樂御書）

けんじ ねん がつ にち

建治 2 年（'76） 6 月 27 日

さい しじようきんぐ
55 歳 四条金吾

いつさいしゆじよう なんみようほうれんげきよう とな

ほか ゆうらく

一切衆生、南無妙法蓮華經と唱うるより外の遊樂なきな

きよう い しゆじようしよゆうらく しゆじよう ゆうらく

ところ うんぬん

り。經に云わく「衆生所遊樂（衆生の遊樂する所）」云々。

もん じじゆほうらく しゆじよう

きでん 漏

この文、あに自受法樂にあらずや。「衆生」のうちに貴殿も

たも しよ いちえんぶだい

にほんこく えんぶだい

れ給うべきや。「所」とは、一閻浮提なり。日本国は閻浮提の

うち ゆうらく われ しきしん えしよう

いちねんさんぜん

内なり。「遊樂」とは、我らが色心・依正ともに一念三千・

じじゆゆうしん ほとけ ほけきよう たも たてまつ

ほか

自受用身の仏にあらずや。法華經を持ち奉るより外に

ゆうらく げんぜあんのん ごしようぜんしよ

遊樂はなし。「現世安穩、後生善処」とは、これなり。

せけん るなんきた 取 合 たも けんじん
ただ世間の留難来るともとりあえ給うべからず。賢人・

しようにん

聖人もこのことはのがれず。

逃

にようぼう

さけ打

飲

なんみようほうれんげきよう

唱

たま

ただ女房と酒うちのみて、南無妙法蓮華經となえ給え。

く

く

覚

らく

らく

開

くらく

おも

あ

苦をば苦とさととり、樂をば樂とひらき、苦樂ともに思い合

なんみようほうれんげきよう

打

唱

居

たま

わせて南無妙法蓮華經とうちとなえいさせ給え。これあに

じじゅほうらく

自受法樂にあらずや。

きようじよう

しんりき

致

たま

きようきようきんげん

いよいよ強盛の信力をいたし給え。恐々謹言。

けんじにねんひのえねろくがつにじゅうしちにち

にちれん

かおう

建治二年丙子六月二十七日

日蓮

花押

しじようきんごどのごへんじ

四条金吾殿御返事